

環境会計

環境保全活動の効率を評価するために、「費用」と「効果」を把握し、課題の明確化や成果の共有化を推進しています。

2008年度の集計結果

2008年度富士通グループ環境会計集計結果は、下表の通り、設備投資17.6億円(前年比0.2億円増加)、費用206.4億円(同12.1億円増加)、経済効果271.2億円(同45.8億円減少)となりました。

費用は前年度に比べて約12億円増加しました。その最大の要因としては、当社が強力に推進しているグリーンITによる環境負荷低減への取り組みを表現した企業広告シリーズをオンエアしたことなどから、環境広告費用を中心に管理活動コストが増加し、前年度比約1.5倍の約46億円になったことが挙げられます。

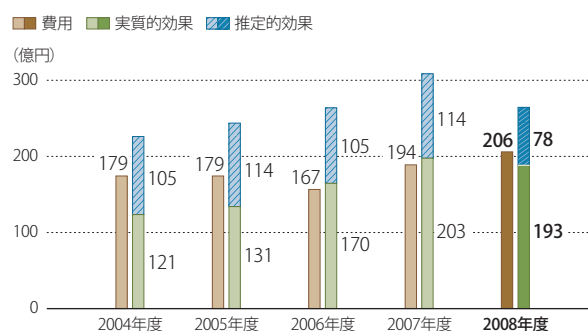
経済効果は前年度比約46億円のマイナスとなりました。この主な要因は、世界的な不況による事業環境の急激な悪化を受け、当社グループ各社の付加価値が減少した結果、当社独自のガイドラインで算出している推定的効果の一つ「生産活動から得られる付加価値に対する環境保全活動の寄与額」(公害防止効果)が大きく減少したことです。また、地球環境保全効果は、環境保全設備の運用改善や管理強化といった省エネルギー活動が一巡したため、約6億円の減少となりました。資源循環効果は、貴金属相場の高騰がやや沈静化したため、電子デバイス系子会社における不要有価物の売却益は、前年度までの増加から一転して減少となりましたが、前年度に引き続きリユース・リデュース活動の推進に伴う効果額の増加もあり、約3億円の減少にとどまりました。

なお、グループ全体としての結果には影響ありませんが、前年度にLSI事業を分社したことで集計の内訳が変わり、富士通単独から設備投資約2億円、費用約27億円、経済効果約37億円が減少し、連結子会社がそれぞれ同額増加しています。

また、集計対象範囲の変更としては、2008年12月に富士通オートメーション(株)が富士通の連結決算の対象ではなくなったため、環境会計では2008年度の集計対象から外しています。これによる影響は、設備投資、費用、経済効果とも前年度実績ベースで1億円未満と軽微です。

WEB 環境会計
<http://jp.fujitsu.com/about/csr/eco/management/accounting/>

費用と経済効果



環境会計

項目	主な範囲	設備投資(億円)	費用(億円)	経済効果(億円)	関連ページ
事業エリア内	公害防止コスト・効果	2.9(-2.9)	49.7(-2.1)	51.3(-31.2)	P63-65
	地球環境保全コスト・効果	9.9(+1.7)	27.5(+1.9)	20.0(-5.5)	P61-62, 68
	資源循環コスト・効果	0.9(+0.4)	34.5(-3.5)	165.9(-2.7)	P63-64
上・下流 コスト・効果	製品・商品の回収・リサイクル・再商品化など	0.1(-0.3)	10.3(-2.1)	5.2(-1.2)	P59-60, 67
管理活動コスト・効果	環境マネジメントシステムの整備・運用、社員への環境教育など	1.4(-0.5)	46.3(+16.3)	5.9(-2.3)	P46-49 P63-64, 66
研究開発コスト・効果	環境保全に寄与する製品等の研究開発など	2.1(+1.5)	22.9(±0.0)	19.0(+1.2)	P53-56
社会活動コスト	環境保全を行う団体などに対する寄付、支援など	0.0(±0.0)	0.2(±0.0)	—	P69
環境損傷対応コスト・効果	土壌・地下水汚染などに関わる修復など	0.2(+0.2)	15.0(+1.6)	4.0(-4.0)	P65
合計		17.6(+0.2)	206.4(+12.1)	271.2(-45.8)	—

- ()内は前年度比
- 四捨五入の関係で、内訳と合計は一致しないことがあります。
- 環境パフォーマンス指標(環境保全効果)は、「事業活動と環境負荷(マテリアルバランス)」(P51-52)をご覧ください。

お客様とともに

社員とともに

株主・投資家のために

お取引先とともに

国際社会・地域社会とともに

地球環境のために